

# トラック運行会社を捜索

## 北海道5人死亡事故 過失致死疑い

北海道八雲町の国道で、道警は19日、トラックが都市間高速バスに衝突し、5人が死亡

した事故で、道警は19日、男性客(33)に対する自動車運転処罰法違反(過失致死)容疑で、トラックを運行していた養豚会社「日本クリーンファーム」(青森県おいらせ町)の八雲町にある道南事業所を家宅捜索した。

道警は19日、立体写真を撮影できるステレオカメラなどで現場の状況を確認した。事故原因や運転手の勤務実態などについて調べを進める。

死亡した乗客3人が、運転席の後ろ3列の座席を予約していたことも捜査関係者への取材で判明した。3人が大破した車体右前方に集中していた可能性がある。

日本クリーンファームの吉原洋明社長は事業所で取材に応じ、「迷惑をおかけして申し訳ありません」と謝罪。梶谷運転手は60歳の定年後も延長

雇用され、今年5月から1年更新のアルバイトとして働いていたとい、直近3カ月の勤務状況を調べた上で、「長時間や過重労働に当たる勤務ではなかった」との見解を示した。

事故は18日午前11時55分ごろ発生。七飯町から八雲町にある食肉処理場に豚30頭を運んでいたトラックが、札幌市から函館市に向かっていた都市間高速バス「高速はこだて号」と衝突した。日本クリーンファームは日本ハムの子会社。運行していた北都交通(札幌市)によると、バスは18日午前7時50分ごろにJR札幌駅を出発。現場近くで高速道路を降り、国道を走っていた。



「日本クリーンファーム」の道南事業所に家宅捜索に入る捜査員(19日、北海道八雲町)

「日本クリーンファーム」の道南事業所に家宅捜索した。

道警は19日、立体写真を撮影できるステレオカメラなどで現場の状況を確認した。事故原因や運転手の勤務実態などについて調べを進める。

死亡した乗客3人が、運転席の後ろ3列の座席を予約していたことも捜査関係者への取材で判明した。3人が大破した車体右前方に集中していた可能性がある。

日本クリーンファームの吉原洋明社長は事業所で取材に応じ、「迷惑をおかけして申し訳ありません」と謝罪。梶谷運転手は60歳の定年後も延長

雇用され、今年5月から1年更新のアルバイトとして働いていたとい、直近3カ月の勤務状況を調べた上で、「長時間や過重労働に当たる勤務ではなかった」との見解を示した。

事故は18日午前11時55分ごろ発生。七飯町から八雲町にある食肉処理場に豚30頭を運んでいたトラックが、札幌市から函館市に向かっていた都市間高速バス「高速はこだて号」と衝突した。日本

# トラック側事業所 搜索

## 北海道・バス事故 運転手の記録押収

北海道八雲町の国道で都市間高速バスに對向のトラックが衝突し、双方の運転手とバスの乗客計5人が死亡した事故で、

道警は19日、トラックを運行する日本クリンファームの道南事業所(八雲町)を自動車運転死傷処罰法違反(過失運転致死)の疑いで家宅搜索した。死亡したトラック運転手の運行記録などを押収し、同社の安全管理体制などを調べる。道警によると、バス側の死者は運転手の興膳孝幸さん(64)と札幌市清田

区、乗客の若崎友哉さん(33)と北海道函館市

区、乗客の若崎友哉さん(33)と北海道函館市、高清水忍さん(57)と北海道鹿部町、高橋裕美さん(55)と札幌市清田区。搜索容疑は、梶谷誠運転手(65)の死亡、北海道森町が運転するトラックが對向車線にはみ出してバスに衝突し、若崎さんを死なせたというものの。今回の事故は、トラックがバスの運転席付近に衝突した。専門家は、車体前部の一部分に對向車が衝突し、破損が大きくなる「オフセット衝突」

の可能性を指摘する。

伊藤大輔教授(機械工学)によると、オフセット衝突は小さな面積に衝撃が集中するため、車体の変形が大きくなる傾向がある。乗っている人が変形した外壁や内部の椅子などにぶつかったり、圧迫されたりするという。伊藤教授は「今回、バスの運転席近くが大きくえぐられており、車体の変形が被害の拡大につながった」と推測する。(上保晃平、新谷千布美)

## トラック側社長 過重労働は否定

死亡したトラックの梶谷誠運転手が所属していた日本クリンファームの吉原洋明社長が19日、

北海道八雲町の同社道南事業所前で報道各社の取材に応じた。吉原社長は「尊い5人が亡くなられ、心からお悔やみを申し上げます。警察への捜査に全面協力する」と述べた。梶谷運転手は同社に数十年前間勤務し、「勤務態度はまじめで、本人から健康状態は特に問題ないと報告を受けていた」。直近の3カ月間については、過重労働などの問題は確認されていないという。

道教育大函館校の出身で入庁同期。「とても気さくで優しい、頼りになる存在でした」と振り返る。

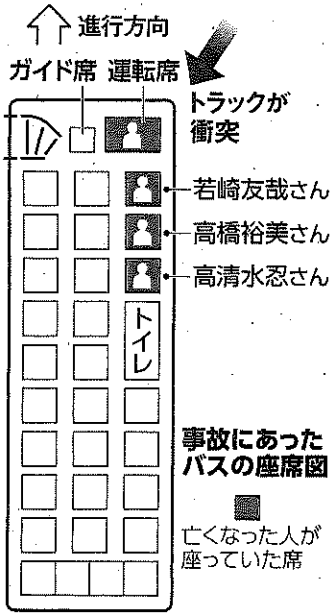


高橋裕美さん

若崎さんの後ろに座っていた高橋裕美さんは、札幌市厚別区で英会話を教えていた。

「正直な人で尊敬していました」。教室オーナーのフィル・ユニ・デールさん(67)は静かに語った。「今日、戻ってくるはずだったのに……」

高橋さんから10年以上英語を学んだ増田輝美さん(74)は中学、高校時代は英語が嫌いだった。だが、高橋さんのおかげで学ぶことが楽しくなった。約10人の生徒を受け持つ高橋さんは常々「楽しんで人に教えているのが幸せ」と話していた。増田さんは「一人の喜びを助ける。それを幸せと思える人」と評した。(阿部清明、古畑航希)



## 同僚が…「信じられない」

バス運転手の真後ろに座っていた函館市職員の若崎友哉さんは4月、人事課で係長級の主査に昇格した。昨年結婚したばかりだった。「まだ、信じられな

い」。葛西巨課長(47)は声を落とした。「課題を見つけ、分析ができる優秀な人材。職場で中心となる職員だった」市教育委員会の代嶋亜耶乃さん(33)は同じ北海

# 北海道バス事故

## トラック所属会社捜索

### 対向車線はみ出す映像

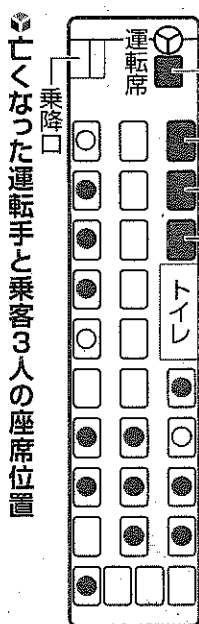
北海道八雲町の国道で札幌発函館行きの長距離バスとトラックが衝突し、双方の運転手と乗客3人の計5人が死亡、乗客12人が負傷した事故で、付近を走行していた車のドライブレコー



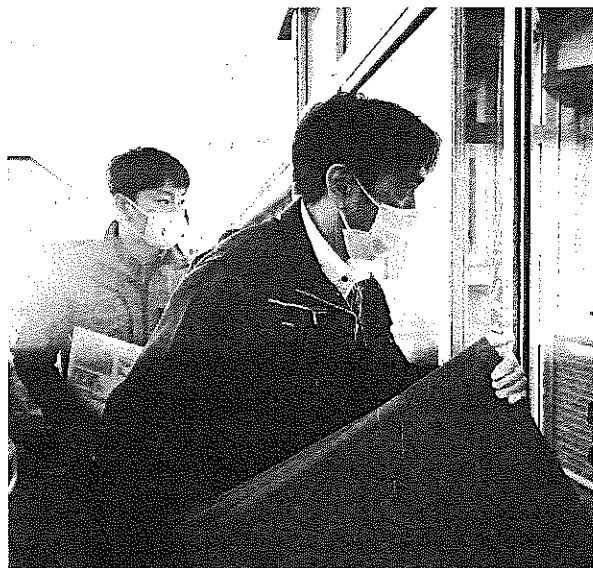
高橋裕美さん

ダーにトラックが対向車線にはみ出す様子が映っていたことが、道警への取材でわかった。道警は19日夜、トラックが所属する養豚会社「日本クリーンファーム」（青森県おいらせ町）の道南事業所（八雲町）を自動車運転死傷行為処罰法違反（過失運転致死）の疑いで捜索した。

●乗客 ○事故直前に下車



亡くなった運転手と乗客3人の座席位置



日本クリーンファーム道南事業所に入る捜査員ら（19日、北海道八雲町で）

事故は18日正午頃に発生。トラックは函館方面から八雲町に豚を運搬していた。現場は見通しの良い片

側1車線の緩やかなカーブで、道警は映像を解析するほか、トラックを運転していた梶谷誠運転手（65）（北海道森町）の勤務実態や運行記録などについて調べる。

道警の発表によると、亡くなったのは梶谷運転手のほか、長距離バスを運転していた札幌市清田区、興膳孝幸さん（64）、乗客の函館

市旭町、同市職員若崎友哉さん（33）、鹿部町本別、パート従業員高清水忍さん（57）、札幌市清田区、高橋裕美さん（55）。興膳さんと高清水さんは胸を強く打ったことによる緊張性気胸、若崎さんと高橋さんは出血性ショックだった。梶谷運転手は20日に司法解剖を行い、死因を調べる。バスを運行していた北都交通（札幌市）によると、バスは運転席を含めて30席あり、死亡した乗客3人は

運転席のすぐ後ろの窓側に若崎さん、高橋さん、高清水さんの順に座っていた。一方、日本クリーンファームの吉原洋明社長は19日、道南事業所で報道陣の取材に応じ、「トラックがセンターラインを越えてバスにぶつかったと認識している」と述べ、陳謝した。梶谷運転手はベテランで、これまで大きな事故を起こしたことはなかったといい、「直近3か月の勤務状況は過重労働にはなってい

なかった」と説明した。トラックにも異常は確認されていないなかったという。

亡くなった高橋さんが勤めていた札幌市内の英会話カフェオーナーのデール・フィルユンさん（67）によると、高橋さんは18日、両親のお見舞いで函館市に向かっていたという。フィルユンさんは「親切で明るい人。歌やピアノが大好きで、聖歌や賛美歌を歌ってくれた。こともあった」と悲しんだ。